特243
446

昭和十八年十月

猶太民族と世界制覇

國際政經學會

目次

猶太民族と世界制覇

上原虎重

序言

最初に申上げておきたいことは、私はユダヤ問題を專攻してゐる者ではありません。從つてこの講習會の趣意書に書いてゐるやうな權威であるといふやうなことはございません。だが併し、永年外交問題を研究してをりますと、どうしても或る程度までユダヤ問題が解らないと外交現象の説明がつかないことを發見するのであります。何も彼もユダヤの陰謀に歸すといふことは物事の眞相を摑む所以でもなし、危險なことでもあると考へますが、或る程度までユダヤ問題が解らなくては到底外交問題は解らない。この意味に於てこれまで觀て參りましたのが私の身上でありまして、これに基いて話をするのであります。果して皆樣のお氣に召すやうな話が出來るかどうか、そこは心許ないのでありますが、どうぞそのお積りでお聽き願ひたいと思ひます。

増田先生からお話しになりましたやうに、私の題目は『言論界に於けるユダヤ勢力』といふことであります。實はこの問題を簡單に引受けましたのでありますが、後から考へてみますと非常に厄介な問題であります。言論界に於けるユダヤの勢力といふものは極めて明瞭でありまして疑問の餘地もなければ、議論の餘地もないのであります。從つてその話をすることになれば一々例を擧げて、斯ういふ風であるといふことを御説明する以外に方法はない。さういふことは甚だ退屈でありますから私は趣向を變へて、只今増田先生が言はれましたやうに、前の世界大戰及それの解決をつけたところのヴェルサイユ條約、さういふものに對してユダヤの勢力がどういふ風に働き掛けたか、どういふ影響を及ぼしたかといふことをお話しする積りでございます。その話を進めます上に

於て、その間に新聞および新聞記者のことが出て參ります。ですから私が必ずしも今日の題を忘れて話してゐるのではないといふことを御諒解願へれば幸甚に存じます。併し新聞のことを最初に一言申上げておきますが、ユダヤ人が言論及言論機關をどういふ風に見てゐるか、且つそれをどういふ風に利用し、操縱しようとしてゐるかといふことを輪郭的に申上げて序文の代りに致します。

ユダヤと言論機關

ユダヤ民族が言論機關をどういふ風に見てゐるかといふことは最も快明にプロトコールに出てをります。プロトコールといふものは、皆さん既に御存知かも知れませんが、これはユダヤ民族の世界征服の大陰謀の筋書及それを達成する方法を細かに書いたものでありまして、これが出來たのは前世紀の終り、一八九七年スイッツルのバーゼルに開かれた第一回のシオニスト大會で出來上つたものであります。それがどうしてユダヤ人以外に洩れたか、は面白いエピソードですが、長くなりますからこゝでは略します。この書の中に言論機關について斯ういふことを言つてをります。

『各國政府が支配してゐる言論機關は偉大なる力を持ち、民衆の心はこれに依つて支配されてゐる。言論機關は民衆の切實な要求を發表もし、不平も發表し、また時には民衆の間に不滿を釀成することもある。言論の自由といふことは、言論機關に依つて初めて實現されるのであるが、各國政府は言論機關の價値を知らない。それ故にそれは遂に吾々の掌中に入つた。吾々は背後に身を隱しつゝ、それに依つて勢力を築き上げることが出來た。また吾々は多量の血を流しはしたが、これに依つて多量の黄金を得た。』

これは言ふてみれば言論機關の價値について言つてをるのであります。それからもう一つ

『言論機關は嚴に拘束しなければならない。文學の類も統制の下におかなければならない。吾々は印刷された思想の總ての綱を吾々の手にしつかりと取らなければならない。併しながら、吾々は互に矛盾する研究とか、論文とかいふやうなものを言論機關に發表させて衆愚をして何等かの幻想を抱かせるやうにしなければならない。吾々はゴイ（非ユダヤ人）に對して、スポーツとか、博奕、娯樂、劣情、さういふものを煽つて彼等の注意を政治から外らすやうにしなければならな

い。』

斯ういふことを言つてをります。これを言ふてみれば言論機關の活用法を說いてゐるのであります。これに依つて判りますやうに、ユダヤ民族は非常に言論機關に重きをおいてゐる。從つてこれをどういふ風に現在使つてゐるかといふと、操從法、利用法はいろ〳〵あるのでありますが、私共の氣のついてをりますことは、第一番にユダヤ人がユダヤの名義を出して新聞・雜誌を發行する、さうしてそれに依つて論陣を張る。第二には普通の新聞、普通の雜誌の類を發行して、これに依つて論陣を張る。普通の新聞と申すのは『ニュー・ヨーク・タイムス』とか『ロンドン・デイリー・テレグラフ』といふものを指すのでありまして、普通の新聞でありますが、ユダヤ人の經營に屬してをります。第三には通信社を經營してニュースを供給し、或はニュースを作製する。御承知の通りイギリスの『ルーター』、フランスが降參する前に持つてをりました『アバス』といふのはユダヤ人が經營してゐるのであります。アメリカに於ては『A・P』とか『U・P』といふやうな大きな通信社があります。これは直接にユダヤ人が經營してゐるのではないけれども、間接的にはユダヤ人の勢力の下にあるのであります。第四にはユダヤ人が自ら新聞記者、或は寄稿家になつて筆を執つて議論、主張等をやるのであります。第五にはユダヤ人が（主として商人でありますが）自分等のために都合の惡い議論なり主張なりをする新聞、雜誌に對してボイコットをする。不買同盟又は廣告を出さないとかいふやうなことをする。新聞にしろ、雜誌にしろその經營は平時におきましては主として廣告の收入に依るのであります。

特にアメリカとか、イギリスとかいふやうな非常に尨大な新聞を出すところでは新聞の經營を賣上だけで賄ふことは出來ない。廣告料に依つて賄ふ。これをユダヤ人がボイコットする。何處の國でも一番大きな廣告といふものは平時に於てはデパート、女の化粧品、自動車等の廣告でありますが、さういふ事業は大概ユダヤの手中にあるのであります。それにボイコットされると新聞の經營が不可能になるのであります。その例としては、アメリカに於ては御承知の新聞王ハースト。澤山の新聞を出してゐる有力者でありますが、それでもユダヤ人の忌諱に觸れますと、ニュー・ヨークから出してをりました『ニュー・ヨーク・アメリカン』といふのを廢刊しなければならなかつたのであります。第六には自分等に不利

益な出版物を買占める。さういふ例は澤山あります。このプロトコールなんかも英米では市場から姿を消しました。皆なユダヤ人が買上げて終ふのであります。私の持つてゐる本でロスチャイルド家の傳記を書いたものがありますが、これは第一卷を出しただけで絶版になつてをります。その他いろ〳〵ありますが、斯ういふ方法でユダヤ人は完全に世界の言論をコントロールしてをつたのであるが、ドイツにヒットラー、イタリーにムッソリーニが出、日本が滿洲事變で聯盟に挑戰するやうになつてからすつかりこの形が崩れて終つた。吾々の方の陣營に於てはユダヤ問題は既に清算されて終つた、殘つてゐるのは惰性的に存在するユダヤ精神であります。

第一次世界大戰

そこで本論に入りますが、先づ第一にこの前の世界大戰とユダヤ民族といふもの〻關係、これはどういふものであるかと言ひますと、あの戰爭の勃發した原因はいろ〳〵でありまして、決して一つや二つの原因からあゝいふ戰爭が起つたのではありませんが、併しユダヤ人があの戰爭の勃發に對して非常な策略をしたことを一言申上げておく必要があります。

一九一四年六月二十八日にオーストリヤの皇儲フェルヂナンド大公夫妻がサラエヴォで暗殺された。この兇行に當つた者が八人であつたのでありますが、そのうちの三人プリンチップ、グラーベス、カブリノヴィッチの三人が最も頑強な奴であつた。さうしてフェルヂナンド夫妻はプリンチップの彈に中つて死んだのでありますが、このプリンチップなる者は無論ユダヤ人でありフリー・メーソンである。それからカブリノヴィッチが捕つてから訊問されて白狀したところに依りますと（これはちやんと本に書いてをりますが）一九一二年つまり暗殺の前々年でありますが、フリー・メーソンリーの會議に於て大公の死刑宣告といふことが決定されてゐたのであります。何故殺さなければならなかつたかと言ふと、大公は非常な英邁な人でありまして、カイゼルの親友でもあつた。斯ういふ人にオーストリヤ、ハンガリーの次の皇帝になられては、オーストリヤ、ハンガリー内のユダヤ人はどうしても騏足を伸すことは出來ない。つまり社會的に、政治的に自分等の野心を達成して行くことは出來ない。そこで亡き者にして終はなければならないといふので、遂に殺して終つた。前大戰の原因はいろ〳〵ありませうけれども、その直接の原因はフェルヂナンド大公の

暗殺でありますから、ユダヤ人に本質的の責任があるといふことは言へるのであります。

それでは、大戰勃發後ユダヤ人はどういふ態度を執つたかと言ひますと、彼等は寄生してゐる國のために皆な働いてゐる。これは吾々と大分違ふところでありまして、例へばイギリスにゐるユダヤ人にすれば、イギリスは勝てば無論宜しい。假にイギリスが負けたつて格別困らない。といふのは自分等の同族が敵側にもゐるからである。ドイツなりオーストリヤ、ハンガリーにもユダヤ人が澤山ゐるからどつちが負けても困らないといふことになるのでありますから、戰爭の勝敗が決定されないうちは皆な忠實にその國のために盡した。唯アメリカのユダヤ人は二つに分れた。親獨派と親英派とに分れたのでありますが、これも鬪爭、或は確執を生ずるまでには行かなかつた。親獨派の連中は主に傍觀的な態度であつた。併しいよ／＼ドイツが負けるといふことが明らかになつてからはドイツに見切りをつけて戰爭の末期から政治ドイツを倒し、經濟ドイツを活かすために非常に活躍してをります。

戰爭の利用

斯ういふ風にして各國に分れてユダヤ人はその國に盡したのでありますが、併し彼等は同時に自分等の地位をだん／＼築き上げて行く。それから戰爭を出來るだけ利用して大儲をして行くといふことでは皆な共通でありまして非常な成績を擧げたのであります。さういふ場合にユダヤ人はどういふ立場に立つかと言ひますとイギリスの方のユダヤ人は保守主義者であり、アメリカの方のユダヤ人は金權主義者である。フランスにゐるユダヤ人は共和主義者で、オーストリヤ、ハンガリーに於いては社會主義者である。ロシヤに於てはボルシェヴィキであるといふやうに、何處の國に於ても最も見込みのある色彩に自分を變へて行くのであります。これが功を奏して戰爭中彼等は大儲をしたのであります。その內容を申すと、第一には莫大な富を手に入れた。アメリカが世界第一の工業國になつたことでそれが說明されるのであります。第二には反猶主義であつたところの帝政ロシヤを倒して赤色政權を樹てた。これは非常に大きなことであります。アメリカが今言つたやうな變化をしたのに劣らないやうな大きな事件であります。第三には、パレスチナにユダヤ民族のナショナル・ホームといふものを作ることに成功した。第四には、國際聯盟を作ることに成功し

た。第五には少數民族主義といふものを認めさせることに成功した。主としてこの五つでありますが、第一、第二の場合は餘りにも明らかでありますから第三、第四、第五について説明を致します。

一九一六年、卽ち大戰の眞ン中の年にイギリスの外務省はユダヤ民族の代表者と『聯合委員會』なるものを作つていろ〳〵相談が進められてゐました。さうして六月十四日にユダヤ人側から次の四つの要求が提出されたのであります。

「第一は、ロシヤに住んでゐるユダヤ民族が政治的、社會的に課せられてゐる惡い條件を撤廢して貰ひたい。第二には、ルーマニヤに住んでゐるユダヤ人の權利を認めて直ぐこれを實際化して貰ひたい。第三には、戰爭の結果各國から割き取る地域内に住んでゐるユダヤ人の權利について宣言して貰ひたい。第四には、パレスチナに對するユダヤ民族の歷史的の權利について聲明を發して貰ひたい」。これはイギリスにその同盟國の内政に干涉させようといふのでありまして、戰爭の歸趨が未だどうなるかさつぱり判らずイギリスとしては同盟國に氣兼ねをしながら戰つてゐる最中にかういふ要求を持ち出したのであります。

米英のユダヤ頭腦團

然らばユダヤ人は何んの廉で斯ういふ要求をしたかと言ひますと、次の事があるのであります。一九三六年六月十九日にロイド・ジョージは英國下院で『諸君はワイズマン氏の驚くべき科學的頭腦に吾々は如何に負ふところが多いかといふことを知つてをられるかどうか分らないが、ワイズマン氏は大戰中ある時期に英軍を救つたのである。それは重砲に用ふべき或る種の要素が全く盡きてゐた時、氏の天才はそれを解決したのである。併しワイズマン氏は聯合國に大きな貢獻をした澤山のユダヤ人の一人に過ぎないのである』といふことを言つてをります。ワイズマンといふ男が爆藥を作る新しい方法を發明してイギリス軍に提供したのですが、彼はどういふ人物かといひますと、一八七五年リスアニヤに生れたユダヤ人で、今大體七十歲位ですが、若い時にイギリスに渡つて化學を勉强してマンチェスター大學の講師をしてゐる中に前大戰となり、イギリス海軍省の實驗室に囑託として働いたのであります。その時に今言つた恐しい爆藥を發見した。現在ワイズマンは何をしてゐるかと言ひますと、世界シオニズム協會の會長をしてをります。ですか

らワイズマンはシオニズム運動の頭腦です。彼はパレスタイン・ジューイッシュ・エージェンシーの會長でもあります。しかしイギリスは、ユダヤ民族に負ふところが多いとしてワイズマンは聯合國に大きな貢獻をした多くのユダヤ人の一人に過ぎないといふ。しからば他のユダヤ人はどういふものであつたか。

第一にはウイルソン大統領の周圍にをつた有力なユダヤ人であります。その二、三を擧げてみますと、ヘンリー・モルゲンタウ、これはトルコにゐたアメリカ大使です。彼はウイルソンが第一回の大統領選擧に出た時に民主黨の會計の元締をやつた男です。それからブランデイス、大審院の判事であると共に米國におけるシオニスト運動の元締でした。それからバーナード・バルーク、これは有力な銀行家でもあるし、前大戰中軍需工場の委員長をやつた男であります。つまりあの大戰爭をやるアメリカの軍需工場をコントロールした人物であります。それからまた銀行家にオットー・カーン、大學の教授ではフランクフルターといふやうな人々がウイルソンの側近にをつたのであります。

第二にイギリス側を見ると、ルーフス・アイザックス（後のレヂング侯爵）以下いろ〳〵なユダヤ人がロイド・ジョージの側近にをつたのでありますが、斯ういふ有力なユダヤ人はどういふ貢獻をしたかと言ひますと、戰時中聯合國に對するアメリカからの金融を斡旋した。それから最後にはアメリカをあの戰爭に參加させたのであります。ロイド・ジョージの古い友達であるところのルーフス・アイザックスを二回に亙つてアメリカに特派大使として送つてゐるのでありますが、彼は何をしたかと言ふと、アメリカのユダヤ人と一緒になつて金融の交渉をしたのであります。ユダヤ人同志の交渉だから勿論圓滑に運ばれた譯であります。また終ひには躊躇するウイルソンを遮二無二戰爭に入れて終つたのであります。

バルフォア宣言

併しユダヤ人ともある者がかゝる大貢獻を無償でやる筈はない。それには代償があつた。さつき申上げた四つの要求がそれであります。ところがさつき申したやうにイギリスはロシヤとか、ルーマニヤとかに氣兼ねをしながら戰爭をしてゐる最中にそれ等の內政に干渉せよといふのですからイギリスとしては非常に當惑した。數ケ月間研究をした結果外務大臣バルフォアは「ヨーロッパの全局的狀況に鑑み、現在又は近き將來において、六月十

四日附覺書の趣旨に沿ふて聯合國間に意見の一致を見るであらうとの希望を持たせることは出來ない」といふ回答をしました。さうすると間もなく偉いことが起つたのであります。右の回答がなされたのは一九一六年の終りでありましたが、その翌年の三月になつてロシヤに革命が起つた。ルヴォフを總理大臣とする政權が樹立されてユダヤ人解放の宣言が立ちどころに聲明された。實に驚くべきことであります。而もその革命がだん〳〵發展して遂に赤色政權にまでなつたが赤色革命のリーダー中にはアメリカから渡つて來たのが相當ゐた。それ等が皆なユダヤ銀行家のクーン・ローブの親戚ワルバーグから金の世話になつてゐる。さういふことが判つたものだからイギリスは愕然とした。「干渉することは困まる」といふと「よし、それぢやこつちは革命で行く」といふのである。かうして四要求のうちの一つはユダヤ民族自ら強引に解決してしまつたので、イギリスは喫驚して、後の分は皆な鵜呑みにして終つた。その一つが一九一七年十一月二日のバルフォア宣言となつて現れたのであります。パレスチナにユダヤ人のナショナル・ホームを作つて上げるといふ約束をしたものであります。これはイギリスの外務大臣バルフォアからロスチャイルドに送つた手紙として發表されたものであります。この手紙はワイズマンが起草したといふことであります。

ルーマニヤに住んでゐるユダヤ人の權利確認問題は、パリー平和會議に於て無理強ひにルーマニヤに承諾させた。宛でイギリスはウイルソンと共にユダヤ民族の代辯者としてあの會議に來てをつたのであります。ルーマニヤの如き小國として泣寢入るのほかなかつた。それから戰爭の結果割讓される地域内に於けるユダヤ人の權利、英國はこれも無論承諾しました。これ等のユダヤ人の要求がどういふ經路を取つて實現されたかといふことを説明致します。

シオニズム運動

（一）パレスチナに於けるナショナル・ホームといふ問題、これはシオニズム運動の表看板であります。シオニズム運動の究極の目的は世界征服であるが先づ以て精神的故國たるユダヤ（パレスチナ）への復歸運動を表看板にしてゐるのであります。この運動は如何にして生れたかと言ひますと、十九世紀の終りにフランスを根柢から搖り動かすと同時に世界中のユダヤ人に非常な衝撃を與へた「ドレイフュス事件」といふのがあつた。フランス

軍隊の大尉であつたドレイフユスが國防の秘密をドイツに賣つたといふのが問題であつて、何年もに亙つてフランスを動搖させた事件である。從つて世界各國からこの大事件を報道するために新聞社の特派員が澤山フランスに行つたのでありますが、そのうちに三人棒組のユダヤ人記者がをつたのであります。一人はテオドル・ヘルツル、ウインナのロスチヤイルド家から補助金をもらつてゐた大新聞ノイエ・フライエ・プレッセの記者である。一人はマックス・ノルドー、ベルリンのフォッシッシェ・ツァイトングの記者である。もう一人はベルリーナ・ターゲブラットの記者テオドル・ウォルフであります。この三人は毎日その日の仕事が濟むと必ず散歩しながら話し合つた。何を話したかと言ふと、話題は何時でもヘルツルの持論であるところの「ユダヤ國建設」であつた。そのことは三人のうちの一人ウォルフが書いてをります。三人のうちの一番年少で、主として話を聽く方に廻つたウォルフは終ひには偉くなつて「ターゲブラット」の主筆になつたのでありますが、そのウォルフが三人會談の經緯を書いてをります。かやうにしてヘルツルの話が内容を具へてシオニズムになつたのであります。ヘルツルは一八九六年に「ユダヤ國」といふパンフレットを出しました。シオニズムを世に問ふた最初であります。その翌年（一八九七年）には第一回シオニスト大會をスイスのバーゼルに召集しましたが、ヘルツルはその時新聞記者を辭めて、シオニズム運動に一生を捧げることになつたのであります。つまりシオニズム運動といふものは五十年前に新聞記者ヘルツルに依つて生れたものである。その計畫がどういふ經路を取つて今日の「ジューイッシュ・ナショナル・ホーム」といふものになつたかといふことを申上げます。原案によるとユダヤ人の「國家」を建設することでありましたが、ヘルツルはドイツのカイゼルに依つてこの計畫を實現しようとしたのであります。彼の衣鉢を繼いだ者が英米に賴つて今日のやうなものを作つたのであります。つまりユダヤがアラビヤ人の住んでゐるパレスチナに這入つて、それがユダヤ民族の「ナショナル・ホーム」であると稱してをりまして、まことに不徹底極まるものでありますが、ヘルツルは左樣なものを作るつもりではなかつたのであります。ワイズマンはバルフォア宣言を起草するに當つて「ナショナル・ホーム」といふ字は使つたが、それは前年の一九一六年に英國がアラビヤ民族に對してアラビヤ國を建設してやるといふ約束をしてゐるために、ユグヤ民族の國家をア

ラビヤの一部分に建設すると書くのは穩かでなかつたからであります。しかしワイズマンの底意はヘルツルと同じく飽くまでもユダヤ國家の建設にあつたのであります。パリ平和會議において米國々務長官ランシングがワイズマンに『一體ナシヨナル・ホームとはどういふものであるか』と訊いた時に、彼は『イングランドがイングリッシュであると同じ程度にパレスチナをジューイッシュたらしめることである』と言つてゐるのであります。

カイゼルの對猶政策

それからカイゼルに賴つてこの計畫を實行しようとした經緯でありますが、カイゼルは御承知の通り英帝國の東方政策に挑戰した人であります。從つてカイゼルは回教徒とユダヤ民族を利用しようとしたのであります。それで一八九八年、つまりバーゼルの第一回シオニスト大會のあつた翌年にトルコを訪ふてイスライムの擁護者であるといふことを宣言し、さらに旅行をパレスチナまで延長して對猶政策の一端を示しました。卽ちカイゼルはシオニズム運動のヘルツルと打合せてエルサレムで會見してをります。尤もカイゼルをパレスチナまで引出すについてはヘルツルがカイゼルの側近に對して非常に運動をしたのであります。然らばカイゼルに對してユダヤ人側はどういふ具體的な話を持掛けたかと言ひますと、三ケ條から成る要請であります。第一に、ユダヤ人はトルコの外債を肩代りしてやる。各國から借りた借金を一括してオットマン・デットといひますが、それをユダヤ人が引受けてやる。第二に、その代りトルコはパレスチナに對してユダヤ人に自由を與へるところのチヤーターを發表する。第三に、パレスチナをドイツの保護の下におく。さういふ註文をつけたのであります。ところが當時の世界の情勢はカイゼルの思ふやうにならなかつた。結局ユダヤ問題をカイゼルによつて解決しようとの計畫は實現しなかつた。唯出來たのはパレスチナに移民を送る小會社が一つ出來ただけであつた。これを見てイギリスはユダヤ國建設の地として東アフリカのウガンダをヘルツルに提供した。ヘルツルは「それでも結構だ」といふことになつたが他のシオニズムの指導者連中が承知しない、どうしてもパレスチナでなければいかんといふ。さうしてウガンダ說は立消えになつたが、イギリスはユダヤ政策を放棄せず、遂に前大戰中、中途半端ではあるが一應の解決をした。それが今出來てゐるパレスチナのナ

シ・ナル・ホームなるものであります。ところがあすこにゐるアラビヤ人が初めからユダヤ人を排斥して、今日に至るまで兩民族は鬪爭をつゞけ、戰後のパレスチナ史を完全な鬪爭史にしてしまつたのであります。

國際聯盟の成立

(二)國際聯盟に對してユダヤ人はどういふ風に働いたかと言ふと、國際聯盟は御承知の通り四年半も慘憺たる大戰爭をした後で一意平和を確立したいといふ人類の當然の希望から生れたことになつてをりますが、實はユダヤ人はゴイを胡麻化して自分等のための國際聯盟を作つたのであります。アメリカのウイルソン、英國のロバート・セシル、南阿のスマッツ等が國際聯盟の產みの親といふことになつてゐるけれども、彼等は唯表看板だけのことで、國際聯盟案は大戰中聯合國のフリー・メーソンのロッヂで研究されて出來上つてをつたのであります。その證據といふやうな物を二つお話しします。その一つは聯盟の憲法を日本語で「聯盟規約」と申してをります。「規約」といふのは何んといふ字を譯したかと言ふと「カヴェナント」といふ字を譯したのである。この「カヴェナント」といふ字はユダヤ人の神であるエホヴァが、アブラハム、イサク、ヤコブ等のユダヤ民族の嫡流と代々契約したことになつてゐるが、その契約を「カヴェナント」といふのであります。エホヴァがアブラハム以下と契約したといふのは嘘であります。エホヴァは元來イスラエルの神樣ではない。モーゼが若い時人殺しをして逃げて行つて賴つたところのマヂヤの神なのであります。モーゼの妻になつたマヂヤの神主の娘が、エホヴァをユダヤ民族に齎したのでありまして、それまではユダヤ民族は多神敎を奉じてゐたのです。要するに舊約全書に出てゐる「カヴェナント」といふ字を聯盟の憲法を表す字に採用してゐるのであります。實に言語道斷な話であります。これが證據の一つ。もう一つは國際聯盟の組織でありますが、これはフリーメーソンリの組織の表面に現れたものを雛形にしてゐる。フリー・メーソンリの組織は各ロッヂから代表者を出して總會を作る。總會は互選によつて理事會を作つて、理事會は互選に依つて議長を選出するといふ風になつてゐる。國際聯盟の組織はその通りであります。ところがフリー・メーソンリには裏の秘密組織がある。この裏の組織が聯盟にもあるか。あるとしてどういふものであるかといふことは勿論知られてゐません。しかしあると考へるのは正しい。私

はフリー・メーソンリの秘密組織がそのまゝ國際聯盟の秘密組織であつたらうと思ふのであります。要するに國際聯盟といふものは全くユダヤ人の頭から出たものである。先年死んだイギリスの有名なユダヤ人で新聞記者でもあり文士でもあつたザングウィルは「國際聯盟はユダヤ流のインスピレーションから生れたものである」といふことを言つてゐるのであります。然らば何んでユダヤ人は國際聯盟を作らねばならないかと言ふと、國際聯盟の制度に依つてパレスチナをイギリスの委任統治領にし、その保護の下に自分等のナショナル・ホームを建設する。その次には少數民族條約といふものを締結させ、それの監督に國際聯盟を當らせるといふ魂膽であります。だから國際聯盟といふものは普遍的な名の下に全くユダヤ人の機關として生れたものであります。

少數民族條約

(三)少數民族條約とはどういふものであるか。各國に寄生するユダヤ人がその國の政府に對して文句がある場合には聯盟に訴へ出ることの出來るやうに規定したものであります。同條約の基礎をなすものはヴェルサイユ條約であります。一つの例を擧げますと、ポーランドに關する第九十三條であります。それには「波蘭國ハ其多數ノ住民ト人種、言語又ハ宗教ヲ異ニスル其住民ノ利益ヲ保護スルタメ、主タル同盟國及聯合國ニオイテ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諾ス」といふことが規定されてをります。

チェッコの場合にも同樣の文句で規定されてをりまして、主たる聯合國が少數民族條約を結べと言つたら結ばない譯には行かない。さうして五つ位の國はこの種の條約を結ばされてをります。然らば少數民族條約問題に當つたユダヤ側の策士は誰であつたかといふとルシャン・ウルフといふ有名な新聞記者であります。彼は十四年位前に七十何歲かで死にました。彼はロンドンのデイリ・グラフィック紙の外交方面を指導したことがあります。長い間パリジュルナル紙のロンドン通信員でもありました。ロンドンのユダヤ紙「ジューイッシュ・ワールド」を主宰したこともあります。「ロンドン・タイムス」にも執筆したこともあります。またフリー・メーソンリの著述家で、ロッジのグランド・マスターでもありました。又大英百科辭典の編纂にも參加してをります。かういふ有力なユダヤ人が少數民族條約の締結に當り、彼自身「ポーランド、ルーマニヤ、チェッコス

ロヴァキヤ、ギリシャに少數民族條約を結ばせた」と言つてをります。併し彼はそれで滿足したわけではなかつた。もう一歩進めて、苟くも國際聯盟に加入する國に對しては總て少數民族條約を結ばせようとしたのであります。併しそれは餘りに横暴だし、第一日本とかアメリカとかいふやうな大國に對してそんなことを提議したところで問題にしない。大國は國際聯盟の內政干渉を許すはずはない。そこでさすがのイギリスもウルフの主張に贊成せず、結局ものにならなかつた。併しユダヤ人はルシャン・ウルフのお蔭で少數民族條約の適用上非常に大きな收穫を得たのであります。つまり例へばルーマニヤならばルーマニヤに住んでゐるユダヤ人がルーマニヤ政府を訴へようといふ場合には、例へばイギリスならばイギリスといふ國を通して聯盟に訴へることに最初極まつてゐたのでありますが、ジュネーヴに常駐するユダヤ民族代表から直接聯盟に訴へることが出來るやうになつたのであります。つまりユダヤ民族は聯盟から國家としての待遇を受けることになつたのであります。

プロトコール

簡單にお話し致しましたが、斯ういふ風にこの前の世界戰爭からユダヤ人は非常に澤山の收穫を得た。どの國もユダヤ人位利益を得た國はないのであります。だから識者は事情が判るに從つて非常に驚いた。「この平和はパックス・ユダイカだ。パリ平和會議から生れた平和はユダヤの平和である。平和條約はユダヤの條約である」といふ聲が起つた。つまりこの前の戰爭は何んのことはないユダヤ人のために戰はれた。さうしてユダヤ人のために平和條約が出來たのであります。さういふ時に例の「プロトコール」といふものがイギリスで出版された。識者の不安は非常に深くなり、プロトコールを繞る論爭は世界中に起つた。さうして皮肉にも最も代表的な論爭はイギリスとアメリカに起つたのであります。イギリスに於ては「モーニング・ポスト」であり、アメリカに於ては自動車王ヘンリー・フォードが自ら經營するディヤボーン・インデペンデント紙によつて論陣を張つたのであります。モーニング・ポストといふ新聞は保守黨系の大新聞であつたが、ユダヤ人の憎むところとなつて經營が立行かなくなりデイリ・テレグラフ紙に合併されました。テレグラフ紙は當時子爵バーナムが經營してゐましたが、バーナムは今のイギリス皇帝ジョージ六世の祖父に當るエドワード七世に取り立てられたレヴィ・ローソ

ンといふユダヤ人であります。彼は皇太子であつた時分に非常な放蕩者であつて博奕とか女とかに掛り切つたものであります。從つて皇太子としての收入では迚も賄へない。そこで前途を見透した連中は彼に金を用立てした。ユダヤ人等は無利息でどん／＼用立した。そのうちの一人がレヴィ・ローソンであります。さういふ人物の經營する新聞にモーニング・ポストは合併されて終つた。皮肉な悲劇であります。それからフォードの方はアメリカ切つての有力者でありますが、それでもユダヤ人には敵はないと見えて、ユダヤ人に訴へられて、プロトコールに關する記事は間違ひであるといふ謝罪をさせられたのであります。

反ユダヤ勢力の勃興

その頃からパッタリとユダヤ人に關する攻撃は現れなくなり、偶に出るとユダヤ人を非議したために罰金を課せられたとか、何んとかユダヤ人に有利なものだけである。兎に角一般情勢から推してユダヤ人の世界制覇といふことは完成するのではないかと考へられたのであります。ところが、これをぶち壞す勢力が出て來た。第一はイタリーにムッソリーニ氏が出て第一着にフリー・メーソンリの退治をした。ついでイタリヤはヴェルサイユ體制外に立つた。その後日本は滿洲事變に依つて國際聯盟に挑戰した。それより先ヒットラー氏はドイツの政權を掌握しヴェルサイユ條約そのものに挑戰した。再軍備宣言、ラインランド進駐等がそれであります。さうして一方國內のユダヤ人を壓迫した。つまり二本建で行つた。然るにそれを押へる力は無い。イタリヤをも、日本をも、ドイツをも押へる力は無い。こゝに於て折角ユダヤ民族の作り上げたヴェルサイユ體制といふものは崩れて行つた。ユダヤ人は一擧に非常な窮地に立つたのであります。それで何んとかしてこの局面打開の途を講じなければならないといふことになつたのであります。嘗てニイチエは斯ういふことを言つてゐるのであります。「二十世紀の問題の一つはヨーロッパにおけるユダヤ人の運命が最後的に決定されることである。彼等がルビコン河を渡つた今日彼等に殘されたものはヨーロッパの主人公になるか、それともヨーロッパを全然失つて終ふかどちらかである。それは恰度彼等が太古エジプトにおいて立たされたところの立場と同じである」と。舊約全書の中にある通り、モーゼがユダヤ人を連れて逃げ出す前にユダヤ人はエジプトにおいて非常な勢力を持つてをつた。餘

りの大勢力であつたためにファラオは彼等を壓迫したのである。ヨーロッパに於けるユダヤ人の地位は太古のエジプトにおける勢力に匹敵するものである。それで彼等は今再び運命の岐路に立たせられたのであります。

米國に於けるユダヤの勢力

ところがヨーロッパのユダヤ人よりも、もつと大きな問題としてアメリカのユダヤ人問題が人類の前途にその怪異な姿を現したのであります。彼等米猶は世界ユダヤ民族の主力となつて、アメリカの富源及アメリカ人の野心に乘じて民族的運命を立直さうとしてゐるのである。これを最もよく説明するものは現在ルーズヴェルトの周圍に集つてゐる有力なユダヤ人の一團であります。先刻ウイルソンの周圍に集つてゐたユダヤ人のことを申上げましたが、その連中よりも更に強いユダヤ人の一團がルーズヴェルトを取圍んでゐるのであります。第一に指を屈しなければならないのはアメリカのユダヤ人の大御所バルークであります。前大戰中軍需工業委員長をやつたバーナード・バルークであります。假りに彼が表面に出なくても實際どういふ勢力をもつてゐるかといふことは吾々に判つてゐるが、どういふ譯か最近アメリカの政府顧問といふものに任命されました。その次にウイルソンの親友モルゲンタウの伜が現在大藏大臣をやつてをります。それから大審院の判事がフランクフルターで、彼は大審院に於けるユダヤ人の傳統を繼いでゐる。それからルーズヴェルトの人事に對して非常な干渉權を持つてゐるローゼンマン、武器貸與法の執行官であるステッチニユース等のユダヤ人であります。『ユダヤ人のアメリカ發展』といふ本を見ますと如何にユダヤ人が各方面に出てゐるか、彼等の陣容がどういふものであるかは能く判るのであります。勿論ユダヤ人としては現在は稀有の受難時代でありますが、同時に吾々他の人類に取つても自由を維持することが出來るか、それとも失ふかといふ岐路に立たされてゐるのであります。併しこれは宿命的であります。

寄生國家の利用

ユダヤ人は自ら神の選民を以て任じてゐる。從つて當然世界に君臨するものであると考へてをります。併し國家も無ければ、武力も無いユダヤ人としてはどうして世界に君臨するつもりかといふに、幾つかの段階を有する複雜な陰謀に依つてそこに到達しようとするのでありま

す。第一には、寄生してゐる國の中の大强國に依賴する。この手段は彼等が昔から今日に至るまで取つて來た傳統的手段であります。例へばバビロニヤに島流しにされてゐる時にはペルシャのサイラスに依つて、彼に助けられた。其の後歷山大王により、トレミーにより、ローマにより、スペインに賴つた。十五世紀の末に三十萬のユダヤ人がスペインから追つ拂はれた後には世界第一の海軍國オランダに賴つた。その次にはドイツに、その次にはイギリス、今日はアメリカに賴るといふやうに、彼等は必ず當代第一流の强國を選んで其の威力に乘じて素志を遂げようとする。第二の方法は自分等の寄生してゐる國に於て經濟的に、政治的に、社會的に自分等の位置を進めて行く。そのためには寄生國の組織を變へて行かなければならない。彼等はその手段としていろ〳〵な手を使ふのでありますが、人間の持つてゐる最も低級な本能に乘じてやる。さうして國家社會を蝕ばむ。或は黃金の力に依つて蝕ばむといふやうなことをやる。それでもいけなければ革命をやる。これを具體的に言ひますと國際的には强國の蔭に隱れて獨占的に世界を、或は人類をエキスプロイトするが、それが出來なくなれば戰爭をやる。又國內的にいへば自分の地位を變へて行くために旣成國家、社會を蝕ばむが、それが出來ない場合には革命をやる。實に人類のために危險千萬な話ですが、彼等が自分達は神の選民であるといふ考へを一擲しない限りはどうしても彼等と人類との關係は調和出來ないのです。世界としては斯ういふ考へを持つてゐる人間を抱へてゐるのは實に物騷千萬であるけれども、どうも止むを得ない。

ユダヤ力の淵源

併し世界中のユダヤ人の數は一千六百萬位である。そんな僅かなものがどうして世界の危險を構成することが出來るか。いろ〳〵な說明があるでせうけれども、私はこゝに二つの原因について考へてみる。一つは、彼等に國が無いといふことであります。國が無いといふことは一見非常な不幸でありますけれども、併しながら彼等のやうな民族に取つては國が無いといふことは一面に於ては非常に有利なことです。それは國防の責任を持つ必要はないからであります。獨立國家の擔ふ責任の中で、國防及び戰爭の責任は最も大きなものであります。それから彼等は解放されてゐるのであります。昔彼等が國を持つてをつた時分には年から年中內訌に耽り、まことに治

まりの悪い國でありました。ところが國を失つてからの彼等は國家の經營に苦勞する必要なく外の國に向つて勢力を集注することが出來るやうになりました。もう一つは、彼等は民族として非常に鍛へられてゐるからであります。恐らく民族的にこれ位鍛へられてゐる民族は無い。彼等の試錬はネブカドネザールに滅ぼされた時から始まつてゐるのであります。郷國から離れて四散したものですから、民族的團結を維持するためには手紙その他の文書に依らなければならない、といふので彼等は物を書く、從つて物を考へる力を養つたのであります。次に、やはり國土から離れたために土地から生活の糧を得ることが出來ない。他の方法に依つて生きて行かなければならない。そこで彼等はバビロンにおいて商才を發揮するチャンスを得た。バビロンは當時大帝國の首府であると同時に世界の大商都であつた。そこで彼等は寛大な治下におかれて十分に商才を發揮することが出來たのであります。もう一つは國家と神殿を失つて終つたものですから彼等自身が民族の代表者であり、一人々々が宗教の代表者であるといふ確信を持つやうになつた。しかもバビロン以後の彼等の歴史を見ると、今言つたやうに商才をするとか、或は思索力及び文才を養ふとか、或は個人的に錬磨するとかいふやうなことを維持するばかりでなく、更に一層錬磨するやうな機會を次ぎ次ぎに得て來たのであります。それがために千六百萬人ばかりの小民族が人類の深憂大患となり得るのだと考へるのであります。さういふ者がユダヤ人でありまして、敵陣營内の一主力をなすものであります。さういふものと戰つて勝ち抜くためには、吾々は餘程深い覺悟を持つてかゝらねばならないと思ふのであります。（完）

（七月二十五日ユダヤ問題講習會講演）

昭和十八年十月廿一日　印刷納本
昭和十八年十月廿五日　發　行

非賣品

東京都麹町區内幸町　幸ビル内
國際政經學會
編輯兼發行人　蘇理伊太郎

東京都豐島區西巣鴨二ノ二七一二
印刷人　山下謙之助

東京都豐島區西巣鴨二ノ二七二一
印刷所　合資會社　光文社
（東東一八五三）

發行所
東京都麹町區内幸町　幸ビル内
國際政經學會
電話銀座一二一八
振替東京八一、八五八